

平成 24 年 1 月 30 日

【照会先】

国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部
部長 金子隆一 第3室長 石井 太
(代表電話) 03 (5253) 1111 (内線 4470・4471)
(直通電話) 03 (3595) 2984

日本の将来推計人口(平成 24 年1月推計)

平成 72(2060)年の人口は 8,674 万人、65 歳以上人口割合は 39.9%

国立社会保障・人口問題研究所は、平成 22 年国勢調査の確定数が公表されたことを受けて、これを出発点とする新たな全国将来人口推計(日本の将来推計人口)を行いましたので、その結果を公表します。

日本の将来推計人口とは、全国の将来の出生、死亡、ならびに国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいてわが国の将来の人口規模ならびに男女・年齢構成の推移について推計を行ったものです(対象は外国人を含めた日本に在住する総人口)。複数の仮定に基づく複数の推計によって将来の人口推移について一定幅の見通しを与えています。今回の推計では、平成 22(2010)年までの実績値をもとにして、平成 72(2060)年までの人口について推計しました(参考推計は平成 122(2110)年まで)。

【推計結果のポイント】

1 今後わが国では人口減少が進み、平成 72(2060)年の推計人口は 8,674 万人

- ・今後わが国の人口は減少する見通しであり、平成 22(2010)年国勢調査による 1 億 2,806 万人から、平成 42(2030)年に 1 億 1,662 万人となり、平成 60(2048)年には 1 億人を割って 9,913 万人となり、平成 72(2060)年には 8,674 万人になるものと推計される(ただし、出生中位(死亡中位)推計による。以下同様)。したがって、平成 72(2060)年までの 50 年間で、人口は 4,132 万人(当初人口の 32.3%)の減少が見込まれる。(p.1)
- ・同推計期間に、年少人口(0-14 歳人口)は当初の 1,684 万人から 791 万人へと 893 万人(当初人口の 53.0%)の減少、生産年齢人口(15-64 歳人口)は 8,173 万人から 4,418 万人へと 3,755 万人(同 45.9%)の減少が見込まれる。これに対し老年人口(65 歳以上人口)は 2,948 万人から 3,464 万人へと 516 万人(同 17.5%)増加する。(p.2~3)

2 人口高齢化が進行し、平成 72(2060)年の 65 歳以上人口割合は 39.9%

- ・同推計期間に、年少人口割合は当初の 13.1%から 9.1%へと 4.0 ポイントの減少、生産年齢人口割合は 63.8%から 50.9%へと 12.9 ポイントの減少が見込まれる。これに対し老年人口割合は 23.0%から一貫して上昇し、平成 72(2060)年には 39.9%へと 16.9 ポイント増加する。(p.2~3)

3 長期仮定、合計特殊出生率は 1.35、平均寿命は男性 84.19 年、女性 90.93 年

- ・推計の前提となる合計特殊出生率は、平成 22(2010)年 1.39 から途中平成 36(2024)年に最低値 1.33 を経て、長期的には 1.35 に収束する。平均寿命は、平成 22(2010)年男性 79.64 年、女性 86.39 年から伸長し、平成 72(2060)年に男性 84.19 年、女性 90.93 年に到達する。(p.7~9)